

創刊110周年記念

誇れるふるさと

24地区リレー

〈vol.20〉

〈黒石② 課題とキーマン〉

黒石地区は、コミュニティー推進協議会（山下則芳会長）が策定した地域計画「ゆめプラン黒石」を基に、まちづくりを進めている。福祉・生活、安心・安全、次世代、環境・衛生、根っ子の5部会を編成。地区のさまざまな課題解決に向けて毎年、部会ごとにテーマを決めて活動してきたが、コロナ禍の昨年度は「地域で子どもを育てるには」のテーマに絞って取り組んだ。

探検マップ作成、地元愛育む



探検マップを作成したまちづくりサークルのメンバー（黒石ふれあいセンターで）

「子ども」キーワードにまちづくり

子どもに関する課題として、あいさつをしない、外で遊ぶことが少ないことなどを挙げる。昨年11月に開催された同プランの全体発表会では「大人から声を掛け、関わり続ける必要がある」「子どもの下校時刻に散歩するなど、あいさつを交わす機会をつくらう」「ジュニアリーダーの育成を目指す」という声が出た。親同士のつながりの希薄さも課題の一つだ。

根っ子部会の主団体の一つ、まちづくりサークル（島崎誠代表、19人）は昨年、探検マップ「お宝発見プロジェクト」(A2サイズ、四つ折り)を作成した。児童生徒にアンケート調査を行い、魅力あるスポットとして挙げられた店、神社、公園、史跡、風景などをマップに落とし込んだ。気になったり不思議だったりする所、パワースポットを紹介する子どもたちのメッセージも掲載。今月の市広報と一緒に全世帯に配布した。

島崎代表は、マップの作成と活用は、子どもの健全育成と地区の人材育成の両方に有効と考えている。「子どもたちの声をマップに反映しているのだから、親子で散策するなど、大いに使ってもらいたい」と話す。

今年度も「子ども」をキーワードとして、まちづくりを展開する。新たに就任した次世代部会の中村文健部会長は「5年先、10年先の地域を見据え、子どもを介して全世代がつながるべき」と指摘する。

アフターコロナ時代に入ろうとする中、同協議会の山下会長は「子どもたちが企画し、運営する行事や活動ができれば、主体的に行動できる子どもを地域ぐるみで育てていきたい」と前を向く。